尾西第三中学校　第2学年　学年通信 NO. 13

あったか港

平成23年11月18日発行

感動の合唱祭

１１月１２日（土）に行われた合唱祭は，朝から校内は歌にあふれ，多くの感動を呼びました。本番のこの日までどのクラスも優秀賞を目指して，熱心に練習をしてきました。練習の過程ではそれぞれに壁にぶつかりながら，それを乗り越えて本番を迎えました。１年生の合唱の後，学年合唱「生命の羽ばたくとき」からスタートしました。リハーサルに比べて格段に上達し，５クラスともに甲乙つけがたいすばらしい合唱でした。今年は３年生の合唱の後に，内田久仁子先生の独唱を聞かせていただきました。プロの歌声に生で触れることができ，驚きと感動の声が上がっていました。来年は，さらにレベルの高い合唱になることを期待します。

おめでとう！

優秀賞　２年３組「たじま牛」

優良賞　２年５組「海の不思議」

２年１組「心の瞳」

２年２組「走る川」

２年４組「友よ北の空へ」

伴奏者賞　２年３組　中村　愛さん
指揮者賞　２年５組　伊藤　里菜さん

☆優秀賞の２年３組は，12月３日（土）に一宮市民会館で行われる一宮市中学校合唱フェスティバルに出場します。

期末テスト発表

２学期の期末テスト範囲が発表されました。下校時刻が早まり，家庭学習の時間は十分に確保されています。しかし，最近の課題の取り組みのようすを見ていると，提出するためだけの表面的な課題の取り組みが目立ちます。課題は，学習内容を定着させるためのものです。自分で解く，解答をみて確認する，間違っていた問題は間違い直しを行う，もう一度問題を解き学習内容が定着しているかを確認する。この繰り返しが大きな力となって，一年後に花開くわけです。実際に地道に努力を積み重ねて，成績が向上してきている人もいます。よく「来年になったら頑張る。」「次は頑張る。」という声を聞きますが，人は劇的に大きく変わることはできません。今できることを確実に行う。まずは，課題のやり方の充実から始めましょう。

先人に学ぶ

「人生は心一つの置きどころ」　　佐久長聖高校駅伝部　前監督　両角　速氏の話

両角氏は無名だった佐久長聖高校男子駅伝部を名だたる強豪へと導き，実業団や箱根駅伝で活躍する数多くの名選手を育て上げた前監督である。

陸上競技の記録とか結果というものは，その世界にいるから通用するものであって，そこを離れたり現役をやめたら何の役にも立たない。むしろ**練習をしてどれだけ心身を鍛え，いかに社会に適応できる人間になっていくか。大切なのはそこですね。**　…中略…

練習場の草取りや整備を続けていると，いつしか**自分を支えてくれる周囲の人に対する感謝の心**が生まれます。

と**同時に大切なのは自己判断能力**です。駅伝は孤独なスポーツですから，自分で考え，走りを調整しなくてはなりません。流れに乗って何も考えずに走っているような選手は，やはり成長が遅いです。私は基本練習計画をつくる以外は生徒に任せてきましたが，それだけに人間力が勝敗を左右します。　…　中略　…

駅伝は勝負事ですから，相手より自分が劣っていると思ってしまうと勝てません。世界の頂点に立つような選手でも毎回勝てるということはまずない。心がくじけそうになる時，そこでいかに心が奮起するか。たとえ思いこみでも「自分は絶対にやれるんだ。」という自信がなければ，前に進むことはできません。

これはスポーツだけでなく，すべてに言えることです。**厳しい環境に直面しようとも，それをプラスに受け止め，いい面を見つけ自信を持って乗り越えていかなくてはいけない。それはまさに心の置きどころ一つです。**人間力が求められるのも，そこだと思います。